

生物多様性 × 環境教育

自然の恵みと厳しさ

「能登はやさしや 土までも」と
生態系を活用した防災・減災
(Eco-DRR)

香坂 玲 (こうさかりょう)

東京大学農学生命科学研究科教授。2008～2010年度まで、愛知県名古屋で開催されたCOP10の支援実行委員会アドバイザーを務める。国連大学高等研究所の客員研究員として里山の評価などにも参画し、財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)フェロー、WWFジャパン自然保護委員会なども兼務。



自然とともに 生きるということ

生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現のために、環境教育は、どんな役割を担えるのでしょうか。

生物多様性など地球環境と、風土・地域での人々の営み・文化を専門に研究されている香坂さんにお話を伺う連載です。

「能登はやさしや 土までも」という言葉があるように、能登半島は北前船で栄えた歴史的な遺産と、穏やかな風土が特徴でした。また2011年6月国連食糧農業機関(FAO)により、国内としては初めて、新潟県佐渡市の「トキと共生する佐渡の里山」と同時に「能登の里山里

海」が「世界農業遺産」に認定されています。その関係で筆者も、里山里海の生態系サービスの「見える化」という試みとして、能登半島で研究活動を実践してきました。

能登半島は今年、元日に地震そして9月に豪雨と、2度の大災害に見舞われました。お亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。現在、被災された住民の方々、市民社会、産業界、実務者、行政、研究者などが、能登半島の石川県創造的復興プランなどを含めて、様々な議論を重ねています。珠洲での炭焼きの再開、輪島の千枚田の景観の復旧、七尾の復興マルシェの試みなど、能登半島の内外で実践的活動も続いています。少し前の話となりますが、アニメ映画『すずめの戸締まり』

石川県輪島市の千枚田





珠洲の海

には、想像上のものも含めて、実に多くの生物が登場します。ミミズは地震などの災いをもたらすものとして、特に印象的な役割を果たしています。映画に解釈を加えるような野暮なことはしたくありませんが、地震との関係性であれば、日本の伝承では、ナマズが地震を引き起こす生物とされてきたことに着想を得ているのでしょうか。同作品

では多くの場面が、日本の九州地方を移動しながら、東京や東

北地方へと展開し、東日本大震災を想起させる内容となりました。紋切り型の感想となつてしましますが、死者や自然への畏敬の念と、生に対する思いが、韓国などをはじめとする国外でも共感を生んだ要素ではないかと思えます。

自然災害に備える 環境教育

さて、本連載のお題は「生物多様性×環境教育」ですが、今後、生物多様性を補助線としながら、環境教育×防災・減災の教育といった広がりもあらうかと考えています。生物多様性という点、どうしても自然との共生、恵みについて議論される場面が多いですが、自然の厳しい顔に目を向けることも必要だ、という議論は2011年以降なされてきました。

環境問題と災害では、静かに進行するか、あるいは突発的に

発生するのか、といった異なる面もありますが、「平時の教育や活動が重要」、「中央政府、行政の役割が限られる」という共通する点もあります。環境と防災の相乗効果が見込めるような活動を期待したいです。

2011年の東日本大震災の教訓もあります。生態系にも深く関わり、生態系や生物多様性に影響を及ぼしたというエビデンスが出てきており、沿岸域を中心に攪乱の効果の観察が累積し、報告されつつあります。同様の報告が能登半島においても行われることが見込まれます。

2024年6月末のアースデーの集まりでは、実際に環境問題、貧困、そして防災に関心を持つ活動家と研究者が集まり、意見交換を行いました。災害などの緊急時になると、どうしても「まずは復興、環境は後で」という論理になりがちですが、東日本や熊本などの地震災害の経

験を経ながら、計画段階から環境・社会の持続性にまで目配りをした活動が広がっていくのか、注目されます。特に災害がなかったとしても、人口減少、そして税収の減収が予測されていた地域において、インフラの維持のコストを抑えつつ、多目的に活用ができる自然の堤防、田んぼダムや砂防堰堤といったいわゆるグリーン・インフラの戦略的な配置や、生態系など自然の力を活用した防災・減災(Eco-DRR)に注目したいです。

雨上がりの空には、虹がかかっています。井伏鱒二は、小説「黒い雨」の結末で、奇跡の虹に希望や再生を託しています。

「Eco-DRR 普及に関する取り組みについて」



Eco-DRRの基本的な考え方や、取り組みの概要・今後の展望などについて知ることができます。

「グリーンインフラ事例集」



「防災・減災」部門で、全国各地のEco-DRRの事例を知ることができます。

企業インタビューの中にも、砂防堰堤のお話があります。ぜひ、あわせてご覧ください。